

立民へ大半が合流

無所属の会
年内にも、会派は解散へ

立憲民主党との統一会派結成を模索していた衆院会派「無所属の会」は10日、国会内で総会を開き、所属議員13人が個別に立民会派入りする方針を決定した。会派全体での合流は断念した。同会は解散し、岡田克也代表を含め、大半が年内にも立民会派入りする見通しだ。岡田氏は「最終



総会後に記者団に説明する岡田克也氏 10日午後、国会

的には政治家一人一人の判断だ」と述べ、所属議員に決断を委ねる考えを示した。

立民会派は現在58人が所属し、岡田氏らの合流で70人前後に拡大する。37人の国民民主党会派の倍近くとなり、野党再編の動きを加

野党一枚岩になれず

10日午後、立憲民主党など野党6党・会派の国会対策委員長が衆院の大島理事議長と会った。手渡した申入書には「政府が臨時国会でも正しい情報を提供せず、立法府の判断を誤らせかねない事態を引き起こした」と記してあった。大島氏は「与党にも伝える」と

速させる可能性がある。消費税増税凍結や脱原発を掲げる立民と政策的な立場が異なる野田佳彦前首相や玄葉光一郎元外相らの動向が焦点となる。

総会後、岡田氏は記者団に「野党は残念ながら膠着状況に陥っている。それを打破するため、何を決断し、どう行動すべきか考えないといけない」と強調した。13人の中には立民への入党を図る議員もいるとみられ

応じたという。

臨時国会では、安倍政権との徹底対決を掲げる立憲が、衆参ともに野党第1会派を占めた。だが、「野党が一枚岩になりきれなかった」（立憲ベテラン）。入管法をめぐることも、立憲、国民民主両党のきしみは続いた。立憲が追及を強める

無所属の会は、会派全体で立民との合流を目指したが、立民は「政策の一致」を条件に個別議員ごとの会派入りを主張。最終的には、同会が議員の個別合流を容認する代わりに、立民は「記者会見で政策に賛同すると言ってくればよい」（幹部）と、ハードルを下げることで歩み寄った。

中、国民は独自の対案を参院に提出。最終盤、今度は国民が内閣不信任案を提出するよう立憲を突き上げたが、立憲は「国民に理解が広がらない」と断った。

入管法では、立憲、国民を始め野党が協力して法務省による技能実習生調査の元資料を調べ上げ、実習生の待遇の問題や法務省の調査の誤りを指摘する場面もあった。だが、与党ベースの審議を覆すには「数の力」が圧倒的に足りなかった。（菊地直己、永田大、中崎太郎）

2018.12.11 朝日

2018.12.11. 神戸